



Light Marks – 光を辿る

キラリ  
富山市ガラス美術館

ベンジャミン・イードルス&キャシー・エリオット  
Benjamin Edols & Kathy Elliott

ベンジャミン・イードルス&キャシー・エリオット《青い惑星》1997年 富山市ガラス美術館蔵 撮影:末永真礼生

ベンジャミン・イードルス&キャシー・エリオット  
Light Marks – 光を辿る

2016年7月16日(土)→2016年9月25日(日)

- 展覧会名 ベンジャミン・イードルス&キャシー・エリオット : Light Marks – 光を辿る
- 会 期 2016年7月16日(土) – 9月25日(日)
- 会 場 富山市ガラス美術館 展示室3(3階)
- 出品点数 56点
- 開場時間 午前9時30分から午後6時(金・土曜日は午後8時まで。入場は閉場の30分前まで)  
※初日のみ午後1時から開場
- 閉 場 日 第1、第3水曜日(閉場日が祝日の場合その翌日)
- 観 覧 料 一般 700円(500円) 大学生 500円(300円)  
「イワタルリ BODY×硝子」展との共通観覧券  
一般 1,000円(800円) 大学生 800円(500円)  
○( )内は前売り・20名以上の団体 ○高校生以下は無料  
※1.前売りは共通観覧券(一般)のみ ※2.本展観覧券で常設展もご覧いただけます
- 前売り券 「イワタルリ BODY×硝子」展との共通観覧券  
取り扱い場所:アーツナビ、アスネットカウンター  
TOYAMA キラリ総合案内(1F)
- 主 催 富山市ガラス美術館

## 展覧会概要

オーストラリアの作家、ベンジャミン・イードルス(1967-)とキャシー・エリオット(1964-)は1993年より共同制作を開始しました。彼らは各自のアイディアを制作の中で試みながら、多様な作品を生み出しています。本展はイードルスとエリオットの日本初の個展であり、初期から現在に至るまでの作品をとおして、彼らの豊かな作品世界に迫ります。

イードルスが主に吹きガラスによって作り上げたかたちに、エリオットが長い時間かけてカットや彫刻を行うことで、彼らは一つの作品を制作しています。イードルスが作り出す洗練されたかたちの上を、エリオットが描く線は軽やかに駆け巡り、また削りの跡は表面を纖細に波立たせており、それぞれの感性が重なり合った独自の表現が展開されています。同時に、作品がもつ伸びやかな輪郭や細かな質感は、光と結びつくことで強調され、柔らかく美しい表情を見せます。素材、そして光と対話を重ねながら生み出される、新鮮な空気感に満ちたイードルスとエリオットの作品には、日々を生きる中で起こる出来事や、自らを取り巻く自然に対する作家達の柔軟で親和的なまなざしが投影されています。また、ひとつひとつの作品は、自身の表現を探究しながら作家達が辿ってきた、光り輝く到達点とも言えます。彼らの目的地は常に更新され続け、私たちの想像や好奇心を新たな場所へと誘います。

## 作家プロフィール

### ベンジャミン・イードルス (Benjamin EDOLS)

1967年 シドニー（オーストラリア）生まれ  
1992年 シドニー・カレッジ・オブ・ザ・アート卒業(BA)  
1992年 キャンベラ・スクール・オブ・アート修了(PgDip)  
1992年 キャシー・エリオットと初めて共同で制作  
現在ノース・マンリー（オーストラリア）在住

### キャシー・エリオット (Kathy ELLIOTT)

1964年 シドニー（オーストラリア）生まれ  
1991年 キャンベラ・スクール・オブ・アート卒業(BA)  
1992年 ベンジャミン・イードルスと初めて共同で制作  
現在ノース・マンリー（オーストラリア）在住

## 展覧会の特徴

### 1. ベンジャミン・イードルスとキャシー・エリオットの日本初の個展

ベンジャミン・イードルスとキャシー・エリオットはこれまで富山ガラス造形研究所など、日本でもワークショップや滞在制作を行ってきましたが、日本において彼らの作品がまとまつて紹介されたことはありませんでした。今回の展覧会がベンジャミン・イードルスとキャシー・エリオットの日本で初めての個展となります。

### 2. 共同制作によって生み出される、新鮮な空気感に満ちた作品群

ベンジャミン・イードルスが吹きガラスでかたちを作り、その後キャシー・エリオットが表面をカットし、あるいは彫刻を行うことで、彼らは一つの作品を生み出しています。二人の柔軟な感性と卓越した技術によって生み出される多様な作品は、国際的に高い評価を得ています。20年以上にわたって共同制作されてきたイードルスとエリオットの作品群は、洗練されたかたちと繊細な表情を持ち、常に新鮮な空気感に満ちています。

### 3. 初期から最新のシリーズに至るまでの作品を紹介

《オレンジ色のカット・ボトル》(1992年)のような、小さなボトルや器からベンジャミン・イードルスとキャシー・エリオットの共同制作は始まりました。黒一色で作られた、アシンメトリーなかたちをもつ「漆黒」シリーズ(1998-2010年)は、何かの生き物のようにも見えるユニークな作品群です。「エンゲージ」シリーズ(2010年)は、表層を覆う繊細な線と、中に存在する美しい「何か」が私たちに様々な想像を促します。最新作である「大波」シリーズ(2015年-2016年)は日本の浮世絵に登場する「波」の表現に着想を得て制作されており、彼らの作家活動における新たな境地であると言えます。

## 関連プログラム

### 1. 作家によるアーティストトーク

日時 7月17日（日）午後2時～

会場 富山市ガラス美術館 レクチャールーム（6階）

定員 先着60名

講師 ベンジャミン・イードルス、キャシー・エリオット

### 2. 学芸員によるギャラリートーク

日時 7月18日（月・祝）、30日（土）、8月13日（土）、27日（土）

9月10日（土）、24日（土） 各回午後2時～

会場 富山市ガラス美術館 展示室3（3階）

※関連プログラムは事前申込み不要です。

※参加は無料ですが、本展の観覧券の半券または共通券の半券が必要となります。

※関連プログラムの開催日時は都合により変更となる場合があります。詳細はHPをご覧ください。

HP : <http://toyama-glass-art-museum.jp/>

## 出版刊行物

### 展覧会カタログ

『ベンジャミン・イードルス&キャシー・エリオット：Light Marks – 光を迎る』

2016年7月16日刊行（予定）

執 筆：キャシー・エリオット

渋谷良治（富山市ガラス美術館長）

中島春香（富山市ガラス美術館学芸員）

価 格：1,500円（税込）

言 語：日英併記

デザイン：彼谷雅光（ナチュラル・デザインスタジオ）

発 行：富山市ガラス美術館

広報用画像

画像 1~9 を広報用に提供いたします。

ご希望の方は下記の使用条件をご承諾の上、美術館へお申し込みください。

《使用条件》

- 画像は本展のご紹介のみにご利用いただけます。画像の 2 次使用はご遠慮ください。
- 画像の掲載には、各画像のキャプション、クレジットを必ずご表示ください。
- トリミングはご遠慮ください。画像が切れたりキャプション等の文字がかぶったりしないようレイアウトにご配慮ください。
- 作品情報等の確認のため、お手数ですが校正ゲラ等の段階で原稿を美術館へお送りください。
- アーカイブのため、掲載誌（紙）、URL、番組収録の DVD などをご寄贈ください。



1.

《青い珊瑚》

1997 年

富山市ガラス美術館所蔵

撮影：末正真礼生



2.

《グルーヴ》

1998 年

富山市ガラス美術館所蔵

撮影：末正真礼生



3.

《「漆黒」シリーズ》

1998 - 1999 年

作家蔵

撮影 : Greg Piper



4.

《カマクラ・シリーズ》

2003 年

左 : Geoff and Pauline Manning 蔵

中央 : 作家蔵

右 : Lisa and Peter Kerr 蔵

撮影 : Greg Piper



5.

《「等高線」シリーズ》

2011 年

作家蔵

撮影 : Greg Piper



6.  
『エンゲージ』シリーズ  
2010年  
作家蔵  
撮影：Greg Piper



7.  
『ポーズ』シリーズ  
2010年  
作家蔵  
撮影：Greg Piper



8.  
『大波』シリーズ  
2016年  
作家蔵  
撮影：Greg Piper



9.  
『うねり』シリーズ  
2015年  
作家蔵  
撮影：Ben Townsend